

授業実践

6年 特別の教科 道徳

人権課題「子供」

■主題名「誰に対しても公平に」(C 公正、公平、社会正義) クラスの人権宣言を作ろう

■教材名「残されたボール」

■ねらい

・誰に対しても偏見をもつことや差別をすることなく、公正、公平な態度で接しようとする心情を育てる。

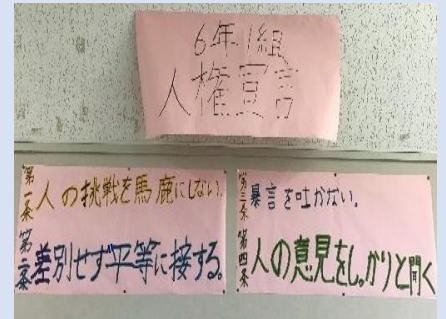
■人権教育の視点

・自身の身の回りにおいて、何気ないきっかけからいじめが起こり得ることや、いじめの理不尽さについて、考える活動を通して、いじめをしない、いじめを見過ごさないという思考を育む。

そうだよ。〇〇さんの考えと同じで、私もこのクラスでは絶対にいじめを起こしたくないと強く思いました。

いじめは、人権侵害で絶対に許せないし、相手の気持ちをもっと考えてみようと思いました。

道徳の授業で感じたことから、学級会で話し合い、「6年人権宣言」を作りました。



5年 国語

人権課題「外国人」

■単元名「調べたことを正確に報告しよう」

■教材名「みんなが過ごしやすい町へ」

■ねらい

・外国人への差別・偏見について調べたことを引用や図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように工夫して報告文に書き表すことができる。

■人権教育の視点

・様々な国の文化や習慣、外国人が日本で生活する上での課題やその解決策等を調べる活動を通して、外国人に対する偏見や差別意識をもつことなく、共に生きていこうとする態度を育てる。

授業の振り返り

インタビューで、メモしたことを生かして文章に書くことができました。本時のめあてを達成できました。

タブレットPCを活用し、作成した報告書を読み合い、良いところを伝え合いました。

ALTの先生の話から、日本に住む外国人の困っていることを知り、メモしました。



4年 総合的な学習の時間

人権課題「障害者」

■単元名「みんながくらしやすいまち」をめざして

■ねらい

- ・障害者が安心して生活するために必要なことについて調べたり、体験したりすることを通して、障害者を支える人々の取組や思いに気づき、共生社会の実現について考えるとともに、自らの生活や行動に生かすことができるようにする。

■人権教育の視点

- ・障害者との交流や調べ学習を通して、障害者の生活について理解を深め、障害者に対する偏見や差別意識を解消するために、障害がある人もない人も思いやりをもって支え合うことができる共生社会を実現しようとする意欲を高める。

障害者が困らない町にするにはどうしたらいいかそれぞれの考えを出し合い、提案にまとめました。



授業の振り返り

本時のめあて「どうすればすべての人が暮らしやすい町になるか」について考えることができました。



車椅子体験を通して、障害者にとって、大変なことがたくさんあることに気付きました。



3年 総合的な学習の時間

人権課題に関わる取組「高齢者」

■単元名「お年寄りを知ろう」

■ねらい

- ・高齢者が安心して生活するために必要なことについて調べたり、体験したりすることを通して、自らの生活や行動に生かすことができるようにする。

■人権教育の視点

- ・これからの社会での高齢者の生きがいや役割について理解し、高齢者の尊厳や人権が尊重される社会を築いていこうとする意欲や態度を身に付ける。

高齢者体験では、高齢者は歩くことも見ることも話すことも大変なことに気付きました。



高齢者施設を訪れ、高齢者や施設で働く職員の方から話を聞くことができ、自分たちに何ができるだろうという思いをもちました。



高齢者が安心して暮らすことができる街にするために、自分たちができることについて話し合いました。



1年 特別の教科 道徳

■主題名「じぶんのいいところ」(A 個性の伸長)

■教材名「みんなじょうず」

■ねらい

- ・自分の「ほめじょうず」などところを喜ぶ「ぼく」の姿を通して、自分の上手にできていることについて気付かせ、自分のよいところをたくさん見付けていこうとする実践意欲と態度を育てる。

■人権教育の視点

- ・自分自身の特徴や長所について考え、自己についての肯定的態度を育てる。

■取組と児童の様子

- ・友達のよさを見付け、伝え合う活動を通して、多くの友達から、自分のよさを認めてもらうことができた。
- ・自分の上手なところ、得意なこと、よさにたくさん気付くことができた。

2年 特別の教科 道徳

■主題名「ちがうところがあっても」(C 公正、公平、社会正義)

■教材名「およげないりすさん」

■ねらい

- ・泳げないことを理由にりすを仲間外れにしてしまったことに気付き、どうすれば一緒に遊べるようになるか考えるかめの姿を通して、違うところがあっても仲良くすることの大切さについて考えさせ、違いを大切に、誰にでも公平に接しようとする心情を育てる。

■人権教育の視点

- ・自分と異なる個性をもつ他者を遠ざけるのではなく、受け入れ、仲良くしようとする心情を育てる。

■取組と児童の様子

- ・泳げないという違いをもつりすに対してのかめの気持ちの変化を考えることで、違うところがあっても仲良くすることの大切さに気付くことができていた。
- ・書いたワークシートを読み合い、互いにサインをすることで、互いの考えを大切にしているという実感をもつことができた。

ひまわり(知的固定学級)・なのはな(情緒固定学級) 特別の教科 道徳

■主題名「ともだちのことをかんがえて」(B 友情・信頼)

■教材名「にわのことり」

■ねらい

- ・うぐいすの家に行くかやまがらの家に行くかに迷ったみそさざいの心の葛藤を通して、友達の気持ちを考えて行動したときに、相手も自分も嬉しくなることに気付かせ、友達と仲良くしようとする心情を育てる。

■人権教育の視点

- ・友達と仲良く活動することの楽しさや助け合うことよさとともに、友達のことを考えて行動することの大切さに気付き、自分や友達を尊重しようとする意欲や態度を育てる。

■取組と児童の様子

- ・気持ちフラッグや立体吹き出しを活用することで登場人物の気持ちを考え、伝え合うことで、相手のことを考えて行動したときに、自分も相手も嬉しくなることに気付くことができた。

雷塚小としての取組



【人権集会】

全校児童が「人権」について考える「人権集会」を実施した。第一回は集会委員による「人権とは」のプレゼンテーションを行い、人権について知ることができた。第二回、第三回は図書委員による人権に関連する絵本の読み聞かせを行った。読み聞かせの後に一人一人が物語について感想を書いた。「人権」について一人一人が考える貴重な時間となった。

【おもいやりの木】

人からされて嬉しかったことや、人に優しくしてもらったことを葉に書き、掲示した。嬉しかった気持ちを思い返すことで、思いやりの輪を広げるきっかけとなった。